西多摩医師会報

第十七号

第17号昭和48年11月7日発行

発行所
西多摩医師会
発行人 高水武夫
編集責任者 箱崎淳
青梅市西分3—103
郵便番号 198
電話 (0428)23－2171
2172

原稿毎月15日〆切

目次

☆公約履行要求全国医師大会開かる …… 1
☆時論
先進諸国の医療形態を探る（其の十三） …… 小泉 新策 3
永世局外中立平和を宣言せるスイス国の社会保障について …… 岸田 壮一 8
☆随筆
鉄人 …… A B C生 13
湿疹 …… 小堂 16
☆趣味
西多摩歌壇 …… 川崎 瀬野 17
☆紀行
「家族、従業員旅行始末記」 …… 河天 F生 19
☆談話室
「青梅市休日診療所問題について」 …… 21
☆ニュース …… 24
☆各部だより …… 25
☆アンケート …… 27
☆編集後記

公約履行要求全国大会開かる

西多摩医師会からの出席者　高水会長、山田理事、箱崎理事、福島理事、菱山監事

大会スローガン

一、自由世界の進歩のために
一、全体主義医療体制反対
一、自由経済社会における医療費統制の破綻
一、低医療費で看護婦沈没
一、統制価格で医薬品沈没
一、自民党失政の根源―中医協
一、中医協の即時解体
一、物価・人件費へのスライド制の確立と非常識点数是正の同時実施
一、医療の主体は医師である

昭和四十八年十月十六日

宣　言

日本における唯一の自由主義政党である自由民主党は、その立党の精神に基づいて新しい世代における社会福祉と医療制度を確立すべきである。

すでに昭和三十六年田中総理大臣が政調会長当時、日本医師会と合意した四原則は、その後一歩も前進せず、そのために医療の荒廃を来たしたことは明らかである。

中医協を単に一時的に見ることなく、長期的に観察するならば、中医協が反自民党的精神のもとに日本の医療の全体主義的傾向を助長し、自由民主党と対決の姿勢をすすめてきたことは、大いなるあやまちである。この間、厚生大臣は何らこれに対して抵抗することなく、建議を待つのみで諮問権を封じられ黙々と彼らのなすがままにまかせていたことは、忠実なる政党政治の責任者とはいえない。たまたま五月、中医協・圓城寺会長は診療報酬の物価・人件費へのスライドに対し、「医療の社会化を条件とするならば」という支払い側の条件を通告し、さらに医薬品のバルクライン決定についても七〇％バルクラインを自己の意見として表明した。斎藤厚生大臣は、これに対し両案とも全く反対であることを日医側には明確にしているが、公益委員及び支払い側に対しては、その意味を何ら公式に伝える努力をしなかった。このことはインフレ下の現時点において医療の混乱、すなわち、医療需要の増大に対処する人的・物的施策を怠り、その結果、看護婦の不足、医薬品の供給異常を来たした。自由経済発展途上における統制医療の破綻はすでに明らかとなった。斎藤厚生大臣は責めを負って自己の進退を考慮すべきである。

佐藤総理大臣と日本医師会との間に締結された十二項目は、自由社会における医療の発展に関する田中四原則を具体化したものであるが、これを阻止するため野党は全力を結集し、反抗の場所を社会保険各種審議会に求めたことは明らかである。中医協は四原則・十二項目実現阻止の最先端に位置するものであって、社会保険審議会

またしかりである。このような各種審議会の存在を許したことは厚生大臣の不明と不勉強の結果であり、政党政治のもとにおける政党出身大臣としての見識を疑わしめるものである。

各種審議会、ことに社会保証制度審議会を頂点とする社会保険関係、中医協等は長期的に自由民主党の志向する自由経済社会の発展を阻止する野党の発言の場であった。その結果、地方自治体に対しては、その厚生福祉行政の混乱を来たし、選挙においては野党の結束を固めさせるとともに、野党と住民パワーとを結合させる結果となった。また、医療面においては高度経済成長下の自由社会において医師の技術料を無視し、看護婦の専門技術料を無視し、リハビリテーション技術料を軽視し、ついに看護婦、リハビリ技術者等の欠乏を来たし、重大な社会医療の欠陥を露呈するにいたった。いかに看護婦対策を立てようと、このような機構のもとにおいては何ら成功するはずはない。

これらの経緯をみれば、自由民主党は佐藤内閣との公約に基づく診療報酬の物価・人件費へのスライドと同時に、不合理点数を合理化し、自由経済社会における技術尊重の精神を具体化すべきである。近い将来、中医協は廃止し自由社会の発展を企画し得る最高のスタッフをもって新たなる審議会を考慮すべきである。当面の医療の統制経済の破綻の事実を率直に認め、大臣は公約に基づく職権告示を行なうべきである。厚生大臣は自由民主党立党の精神に基づき医療の根本的改革を断行すべきである。

右宣言する。

昭和四十八年十月十六日

決　議

一、田中総理大臣が、昭和三十六年政調会長当時日本医師会と妥結した医療に関する四つの原則は、日本の自由社会における経済発展と、社会福祉の基本である医療の発展とを志向した大きな理想であった。

この原則を十数年間放置した責任は自由民主党にある。自由民主党は責任をもって至急にこの四原則を具体化し、日本の医療を自由社会における最も進歩的な体制に招来すべきである。

二、中医協は自由社会における進歩の原則を否定し、いたずらに全体主義的政党とその関係者の意見を取り入れ、自由民主党の立党の精神をじゅうりんする方策に終始した。かかる協議会を自由民主党は、その責任においてすみやかに解散すべきである。

三、厚生大臣は慈善的医療から出発した当時の不合理な技術報酬体系を高度経済成長下の物価・人件費へのスライドに対応させるとともに、同時に即時是正を行なうべきである。

厚生大臣は職権告示をもって自由民主党立党の精神を具体化すべきである。

四、看護婦の沈没、医薬品の沈没等、高度成長下の亀裂を医療面に生じたことは、厚生行政の重大なる失策である。

この点を反省し、厚生大臣は至急善後策を講ずべきである。

右決議する。

昭和四十八年十月十六日

時論

先進諸国の医療形態を探る

（其の十三）

永世局外中立平和を宣言せる スイス国の社会保障ついて

日医代議員 小泉新策

スイスは日本の九州より小さく、人口約六〇〇万、資源に乏しい小国であるにも拘らず、人口割の輸出額に於ては世界最大級であり、平和を愛好する国民としての、平和を守るための不断の経済的武装が必要で、その姿勢は国民と国家の戦闘的要素の中に汲みとることが出来る。スイス国民は他国民に比較して、著しく国際的資質を備えて居り、人口は僅か六〇〇万たらずであるのに、その約七二%は独逸語を話し、約二〇%はフランス語を、更に四%はイタリア語を、四%はロランシュ語を常用して居り、公認国語が四つもある国柄である。ということは民族の接点に存立して居る国であるとも云えるのである。而も商業地区や観光事業関係では英語が混用語となっている。人種、言語、宗教、文化の異る人々の集合体であるスイスは、国民間に流れる感情は常に善意と寛容と相互理解だけが接着剤としての役割を果して居ると云える。歴史的には一二九一年森林諸州が相互援助とアルプスの街道の守り手として、有名な「リュウトリーの盟約」を結んだのであるが、それは次の通り。

①外部よりの来襲に対して互に援助する。
②仲裁により相互の紛争を解決する。
③仲裁々定を拒む相手方に対して団結する。
④外部よりの法権をば許さぬ

以上の四項目が盟約の条項であり、これ等の福祉の盟約による規則は神意によって永遠に存続するものであって、一三三二年にはルツエルンが、一三五五年にはチューリッヒが、一三五二年にはツークとグラールスが、又一三五三年にはベルンが同盟に参加して今日のスイス国家の基盤を作り上げて来たのである。

一五一五年スイスが武力外交に終末をつげたあの「マレニヤーノからの退却」という歴史的体験がスイス中立の基礎となったわけであって一八一四年～一五年のウィーン会議で、スイス二二州の独立と、連合、永世局外中立が承認され、一九二〇年ロンドン宣言によってスイスの恒久中立が平和に尽す主旨を認めて、国際連盟では例外的に、スイスを軍備中立国メンバーとして承認されたのである。以来積極的に国際活動を進めて、赤十字、国際労働機構、世界保健機関、万国郵便連合、国際電気通信同盟、国際鉄道輸送会議、国際知的財保護同盟、国際教育局、国連欧州事務局等、世界の国際機関の二〇

%以上がスイスに存在している。又興味あることにはスイスでは国民皆兵で徴兵制度の中で訓練されて居り国民の男子十八才より六〇才までみな兵役の義務を負わされている。永世中立平和国スイスであるから、兵役などあるべきでないと考え勝ちであるが全くそれの反対であることがわかる。又婦人の参政権がまだ与えられていない。こうした後進的な変った一面もある。

スイスは全国を二二州（カントン）に区分され、カントンはそれぞれ憲法を持ち政府と議会があり、カントンを単位として個々に独立した連邦である。その独立の権利は連邦憲法より優先する。また三〇九五の行政区（コンミューン）に分れて居て、このコンミューンがスイス政治組織の最小単位でありカントンの基礎でもあるわけである。スイス市民は誰でも何処かのコンミューンに属して居ることによって、この共同体としての種々の問題の決定に参加せねばならない。つまりコンミューンの存在はスイスデモクラシーの根源であるのである。

スイスの産業は「国際的思考に立脚している」と云っているが、事実国家総産業の従業員数は八八二、四〇〇人、内訳スイス人五六七、六〇〇人、外国人三一四、八〇〇人で、その男女比率は男六二、五〇〇〇人、女二五七、四〇〇人である。化学産業の企業数は四二八、従業員数は六一、五〇〇人、その中外国人は一四、四〇〇人で、このほか教育制度として重要な位置にある私立学校があり、全世界より集っている約四〇、〇〇〇人の青少年がこの中にあって就業中である。このように産業労働者の構成と教育面に於ける国際的平和と世界市場を掌握する如き偉大な国家態勢にあることがうかがえるのである。先きに述べた「国際的思考に立脚する」という意味は超国家的存在としてのスイスの自覚と慣習、任務の遂行をなしとげる頭脳の精密さ、更に過去人類に貢献して来た歴史的自負を物語って居るものである。それは彼等の克己と自助の精神によって営々として築き上げて来た知識の賜物であると云える。スイスと日本とは資源の少い狭い国土を有する国で、狭い国土に多数の国民が生存している点では共通している。又歴史的体験としてはスイスは「マレニヤーノからの退却」によって武力外交に終止符をつげ中立えの第一歩を踏み出して来た。日本は第二次大戦の敗北の結果平和国家たらんとして公布した「平和憲法」を厳守して来ている。スイスは過去何世紀にもわたって欧州の十字路として西欧文化を醸成し、その国際化をなし遂げて来て居り又日本は四千年有余の東洋文明の伝統の上に明治以来西欧文化を急速に受入れて日本独自の伝統文化を築き上げ国際化を推進して来て居るわけであって、謂わば東西両大陸の重要なかけ橋となるべき使命を担って来て居ると言っても過言ではない。

スイスの国状に就ての記述は述べれば限りがないからこの位にして、本題の医療制度についての検討を進めるとする。

スイスに於ける医療保険制度は連邦政府によって統一の方向に進みつつはあるが州（カントン）の自治が原則であるので、これに就て

述べるがカントンによってはその内容が多少相違している。スイスの医療保険の制度や保険薬価の制度や医薬品請求事務センターの概要を述べるわけであるが、それより前に社会保障の個々の問題について申し述べて見ることとする。次の通り五項目に区分する。

第一、老令、廃疾遺族給付制度

第二、疾病、母性給付制度。

第三、労働災害給付制度。

第四、失業給付制度。

第五、家族手当制度……以上保障制度である。

第六、病院状況。

第七、加入している保険状況。

第八、保険医薬品について。

以上のそれぞれに区分して整理して述べる。

㈠老令廃疾遺族年金について、老令年金は月額一二五フラン（一フラン八四円二四銭）に平均年収の一・二五%を加算する。最低額と最高額がきまって居て月二〇〇フランと四〇〇フラン。部分年金としては一九四八年以降に於ける拠出年数の比率を完全年金に乗じた額としている。扶養家族付加給付として妻が六〇才、又は廃疾の場合は年金の六〇%、四五才～五九才の場合四〇%、一八才未満（学生ならば二五才まで）の子一人当り年金の四〇%、が支給される。補足的年金というのがある。補足年金とは資力が所定以下の老令な市民に、通常の年金の最低額まで支給する（一八八三年以前出生者以外は所得調査を受ける）、受給資格は男は六五才、女は六二才。廃疾年金は老令年金の場合と同様、常時介護加給（所得調査を行った後だけ）廃疾の程度に応じて月額五九～一七五フランの給付を行う。受給資格は稼得能力の六六%喪失の場合、完全年金では一九四八年以降毎年拠出して来たもの、又部分年金では最低一年以上の拠出者、外国人は十年間の拠出、又は一五年居住して来たものとなっている。

遺族給付年金としては、四〇才又は子を養育して居る寡婦に支給する。額は被保険者年金の八〇%、最低額と最高額は一六〇フラン～三二〇フランである。その他の寡婦には寡婦になった年令に応じ年金二～四年分の一時金を支給する。

遺児年金は一八才（廃疾二〇才、学生二五才）未満の遺児一人当り被保険者年金の四〇%、両親喪失遺児ならば一人につき年金の六〇%を支給する。資格要件としては遺族年金は完全年金としては死亡者が一九四八年（又は二一才）以降毎年拠出、部分年金には一年の拠出でたりる。以上の老令廃疾遺族各の年金の財源としては、被用者の拠出は収入の二・六%を老令遺族に、三%を廃疾に行うことになっている。又自営業者及び無職者の拠出は年間所得の四・六%を老令遺族に〇・六%を廃疾に行うが、年間所得が一六、〇〇〇フラン未満のときは二分の一まで減額される。

使用者の拠出は賃金支払額の二・六%を、老令遺族に〇・三%を廃疾に行っている。

政府は老令遺族給付費用の約二五％を、癈疾給付費用の五〇％の補助を行っている。給付算定の基礎は年最高収入二一、〇〇〇フラン、毎三年物価指数八％上昇で調整を行う。

㈡疾病、母性給付制度に就て。これは現金給付である。傷病手当金は連邦最低基準は一日二フランである。実際の給付額は基金により又給付率により異る（若干の基金に於てのみ支給）待期期間三日（連邦最低基準）連続九〇〇日中最低七二〇日までである。結核の場合は七年間の中一八〇〇日まで、各基金の規定通りに支給される。出産手当金は若干の基金に於てのみ支給されている。通常傷病手当金のみであって、出産後最低六週以上一〇週まで支給する。保育手当は五〇フランを支給する。

医療給付は通常基金と契約した医師又病院、薬剤師によって医療サービスが提供された場合、基金が直接支払いを行う。医療給付を行う全基金に於ける強制給付は病院内外に於ける医師の診療、助産、処方薬剤、精密検査、病院医療と水治療法等の費用に対する毎日の負担金、又基金によっては、その他の任意の給付も行う。基金では医療費、薬剤費の一〇％までと、成人病の初診療の一定額とを患者の自己負担となっている。

出産と結核治療の場合は自己負担なし。支給期間に就ては制限はない。但し入院期間は最低九〇〇日中七二〇日まで、結核は七年間に一八〇〇日までである。

被扶養者に対する医療の給付は基金えの加入者の自己の権利として給付を受けられる。加入していなければ給付は勿論ない。

資格要件としては疾病給付は基金に三ケ月以上加入、又母性給付は三ケ月以上の中断なしに基金に九ケ月以上の加入が必要である。

適用範囲としては認可疾病保険基金加入者であって、基金は加入資格として年令制度を定める。又家族は個別的に基金に加入が必要である。州全域居住者又は約半数の州では、都市居住者のうち、所定額以下の所得の者は通常基金に強制加入となっている。他の地域では任意加入（現金給付については強制加入保険なし）である。現在人口の九〇％以上が疾病基金に加入している。

被保険者拠出は基金により、又給付率により相異がある。平均して費用の八〇％を負担する。使用者に法的には拠出の義務なし。幾つかの団体協約では使用者も被保険者の拠出を分担している。

政府連邦補助金は全認可基金へ加入者数及び給付率に応じて交付している。出産、結核、山間部居住者、障害者、貧困者には特別補助金あり。更に若干の州及び市町村の補助金がある。

㈢労働災害保険給付は収入の八〇％で最高額一日四〇フランとなっている。待期二日、治癒まで又は癈疾認定までの間支給する。医療給付（労災）は内外科診療、病院医療、薬剤その他必要な処置、移送費等で期間の制限はない。

労災寡婦年金は被保険者収入の三〇％（癈疾かん夫にも支給）を支給されている。

労災遺児年金は十八才未満の各遺児について収入の一五％、両親喪

失遺児では二五％支給される。その他有資格の遺族（但し上記年金が最低額以下の場合）父母、祖父母、兄弟姉妹合計で収入の二〇％を受給出来る。遺族年金の合計最高額は収入の六〇％である。又葬儀給付は五〇〇フラン（約四二一円二〇銭）の一時金である。

適用範囲は工業、建築、運輸業の被用者、その他特定の危険業種の被用者、又特別制度があって農業被用者にも、船員にも適用されている。

資格要件としては最低資格収得期間なし。給付は業務上及び業務外いづれの事故にても支給する。財源としては被保険者は労災保険についての拠出はない。但し業務外の事故に対する保険の場合全費用を支弁する。使用者は全費用を各業種の事故率によって異る拠出率で負担する。政府よりの補助はない。拠出算定の基礎となる最高収入は年額二一、〇〇〇フラン。失業給付は失業直前の一八ケ月間に六ケ月以上の被保険者期間を有することが条件であり、職業紹介所の登録をうけ、適職を拒否しないことである。失業給付は職種別法定賃金の七五％、待期三日以後六ケ月間まで支給。特別な状況では一二ケ月まで延長可能である。

財源は被保険者の各職種別による法定賃金の〇・三％拠出、及び使用者の同じく職種別法定賃金による賃金支払総額の一・七％拠出である。政府よりの補助はない。

家族手当は一九六六年制定法で適用範囲は工業及び商業の被用者でその年金受給者、特別制度として農業被用者、小規模自作農、家内労働者、船員、鉄道員、販売員、非農自営業者、公務員で、財源は被保険者は職種別法定賃金の〇・五％、使用者は同賃金支払総額の一六・五％を拠出する。

政府の補助はない。

資格要件としては児童少年は十八才未満（但し廃疾は制限なし）、妻、若くは廃疾の夫も支給対象となる。給付額は児童一人当り月額一五フラン～三五フランを支給する。

不当、疑問の査定、減点には
必ず再審請求を出そう。

毎月七日午後八時まで減点通知、注意書、減点レセプトのコピー等を提出して下さい。

随筆

鉄人

（福生病院勤務）　岸田壮一

ルー・ゲーリッグは鉄人（アイアンマン）、といわれた。鉄の如くに冷たかったからではなく、鉄の如くに強かったからである。一塁を守るゲーリッグは打揚げられたファウルフライを追って、コンクリートの塀に激突することが屢々あったけれども、倒れて起き上がれないようなことは嘗てなかった。鉄人の綽名（ニックネーム）はこんなところから生れた。

いうまでもなくゲーリッグは本塁打王であった。けれども彼が活躍した前半には同じチームの僚友にベーブ・ルースがあり、中間にはフィラデルフィア、アスレティックスにゴミー・フオクスがあり、後半には又同僚にゴヨー・デイマジオが居たりしたから、ゲーリッグが年度の本塁打王になったのは僅かに二回に過ぎなかったが、その確実な打撃や守備は常に誰からも賞賛された。

例えば満塁本塁打の数はベーブ・ルースさえも生涯で十五本しか打てなかったが、ゲーリッグは二十三本も打っている。一試合に四本の本塁打の記録も持っている。そして又殆んどの年度に打点はリーグで最高であった。従ってシーズンの打撃三冠王になったこともあるし、最高殊勲選手に二回も選ばれている。

ニューヨーク・ヤンキースで三番を打つベーブ・ルースは自分の本塁打が多いのは四番にゲーリッグが居るからだと自らいっている。もしゲーリッグが次に居なかったならばルースはもっともっと四球で敬遠されて本塁打を打てなかったであろうとさえいわれている。

ゲーリッグの生涯打率三割四分一厘も一寸他に類例を見ないものであるし、生涯本塁打四百九十一本も又これを越すものはそう多くはない。それよりも何よりも二千百三十回の公式試合連続無休出場の大記録は固より空前であり、将来も誰もこれを破ることは出来ないであろう。鉄人の面目躍如たるものが見られるのである。

私達前後の年令の野球ファンは数多く輩出した米国野球選手の中で誰よりもこのルー・ゲーリッグに親しみを感ずるであろう。それは全米を選りすぐって編成されたチームの一塁手四番打者として一九三一年と一九三四年の二回に来日しているからである。そして日本人の前に素晴らしい妙技を見せてくれたからである。

最近と違って実力に格段の差があった当時の日本の野球力では試合の勝敗は問題にならなかった。だから米チームの選手の中では相手を小馬鹿にしたふざけたプレーをするものも多かった。しかしゲーリッグにはそんな態度は全くなかった。凡打を打つのは多少意識し

てであったとしても必ず全力疾走した。本塁打と明かに分る当りでも球の行方も見ずに力走し、一塁を過ぎて場内の喚声でそれと分ると初めて歩度を緩める走り方であった。

野球試合というものはやってみなければ分らないもので意外なことが起らないとは限らない。初回の来日のときであった。当時はまだ相手の出来るプロのチームもなかったので、六大学の各ナインが試合をした。早稲田大学との試合であった。双方一点ずつとっていたが、何時でも勝てるつもりであったのであろう、米チームは半ば遊び半分の形でプレーしていた。

七回に至って早稲田の攻撃は四番の伊達から始まったが、これが左翼左に二塁打した。続く三原が投手強襲安打を放ち無死一、三塁となって、三原が二塁に盗塁した。投手ケリーは満塁策を取り次打者を四球に出し、内外野手共に前進守備を布いていた。次の夫馬は奮起して前進守備の中堅頭上を抜きワンバウンドで柵に達する二塁打を放ち、二者生還なお無死二、三塁に走者を置く大ピンチになった。

米側はマサカこんなことにはなるまいとの安心感からどの投手もウォームアップしていない。ここで急拠一塁手ゲーリッグは一塁ミットを棄ててマウンドに立ち猛速球を投込んで、塁にあった二走者は還したが次の三人を凡打に打取ってチェンジにした。

学生時代は投手の経験は豊かであっても、プロに入ってから長くマウンドに立ったことのないゲーリッグとしては大出来であった。なってからは怪速球投手レフテイー・グローブが出て、八、九回バッタバッタと早大打者を三振に打取って試合を終った。当時のファンの語草ともなったものである。

或人の見方によれば時の球審リアドンは一緒に来日したのであるが、この時五対一と負け越して米側の攻撃となるや、急にストライクの範囲を狭ばめ、内外角の所謂臭い球を全部ボールに判定するので、やむを得ず真中に投げると忽ち快打を飛ばされて手のつけようがなかったのだという。

第二回目の来日の折はフィラデルフィア・アスレテイックで監督を五十年以上も勤めた大長老ユニーニックを総監督に、ベーブ・ルースやジミー・フオクスやアル・シモンズなども加わった文字通りの世界に嘗てみない強力チームであったので大変な人気であった。今度は我が方も学生野球のヒーローの他に都市対抗野球で活躍していた名選手を集めて全日本軍を結成し、これが主として相手をして日本国内各地を転戦した。この後に全日本軍が母体となって今の読売巨人軍が出来、日本のプロ野球発生の動機となったことは世間に開知されている。

当時中等学校野球で名声を挙げて「甲子園の英雄」であった京都商業の少年投手沢村も卒業と同時に参加した。そして老練の名捕手久慈のリードの下に静岡の草薙球場に於て対戦、この強打全米チームをあわや完封するやに見えた。七回に到り残念にもたった一球の[illegible]ーッグに強打され、右翼外野席に入る本塁打となって一

対零の敗戦投手になってしまった。敗戦ではあったがこの無類の快投は当時対戦したすべての投手に優るものであったので、戦後最優秀投手に贈る沢村賞の起源になったのである。沢村はこれで将来の大成を期待されたのに応召して若くして戦死してしまった。であるから更にその思い出の多いものになった。

私はその第二回目来日時の試合を神宮球場に見に行った記憶がある。流石に名だたるベーブ・ルースはベーブ・ルースだけのものはあった。彼は何をしてもファンを喜ばせるものを持っていた。それは彼の人柄から滲み出る子供らしい処作にあった。高く高く揚る飛球を打ち揚げた。本当に雲に入るかと思うようなものであった。しかし上っただけで飛距離は延びず外野手に塀際で捕球された。ルースは右手を大きく振って口惜しがった。観衆は大喜びで拍手した。すると又大きく腕を振った。又大拍手が起った。勿論ワザとやっているのである。しかしそれが少しの嫌味も感じさせないのが彼の醸し出す雰囲気というのであろう。

ゲーリッグにはこんなところはない。何処までも真面目であった。けれどもいうところの糞真面目では決してなかった。

試合の前に内野の守備練習を型の如くやったけれども、余興として球なしでこれを行う所謂シャドウ　ノックの妙技を披露した。大選手連ともなるとナカナカ見事なもので、フト見ると球があるように見えて仕方がない。横っ飛びに難球を逆シングルで好球するかと思うと、次は間抜けたトンネルをやって後を振り向いてベソをかいている。ゲーリッグの一塁手振りも堂に入ったもので、身体を思い切り延ばして捕球、間一髪アウトの型をやるかと思うと、遊撃方面からの悪送球をつかみそこねてポロリと落し、慌てて拾おうとして更にこぼし、所謂お手玉を繰返してショゲ込んでしまう動作は誠に真に迫ったものがあった。

こういうところを見ると存外に滑稽味を性格の中に秘めている人のようでもあった。

ゲーリッグは球場に於ては烈々の闘志を持ってプレーするけれども、球場外では決して人と争ったことのない人であったという。野球選手は殆んどの人がホールド、アウトということをする。即ち年度の給料が契約時に意に充たず、球団経営者側との折合がつかず、シーズン不出場を宣言することである。大低はどちらかが歩みよって妥協し、実際に出場しないことはめったにないけれども、選手側にとっては唯一の賃上げ要求のチャンスであり、前年度巧績の大きかった選手などはままやることである。一年契約の労働者には違いないのであるからある意味に於ては当然のことでもある。しかしゲーリッグに限ってはこういうことが全くなかったのである。この大選手の給料がスンナリ決ることはヤンキースの経営者にとってこれ位楽なことはなかった。このために他のヘッポコ選手の過大な要求を簡単に抑えることが出来たからである。

こういうゲーリッグの性格は先天的のものでもあったであろうが、又彼の生い立ちによるところも大きかったかも知れない。ルーとい

うのは愛称である。正確にはHenry Louis Gahrigという。その名の示す通り彼は独逸系米人である。というよりも彼の両親は共に独逸生れの移民であった。故あってニューヨークで結ばれてルーを頭に数人の子供が生れたが、ルーが物心がつき、ようやく成人する頃、長年の生活苦が応えて父親は病床に親しむことが多く、一家の生計は一つに母親の双肩にかかったのである。

愛情が深く又気の強い母親は決してひるまなかった。そして人の嫌がる仕事を率先して働いてよく一家を養った。母親がコロンビア大学のフラタニティーの世話をして働くようになったことはルーにとってこよなき幸せをもたらせた。フラタニティーとは数人の学生が起居を共にする一種の寄宿舎で、ここで一緒に生活した学友は生涯親子兄弟も及ばない親友となるのが常であるという。貧困であったゲーリッグ一家にとって大学へ入ることは普通なら思いも及ばないのであるが、このためにルーはこのコロンビア大学に入り卒業することが出来たのである。後に彼のプレーが頭脳的であるといわれたのもこの経歴が大きくあずかっている。

彼はこの頃既にコロンビア・ルーの綽名　で野球にアメリカンフット　ボールに名を挙げた。端麗な容姿は又女子学生の間でももてはやされた。そしてその天分は夙にニューヨーク・ヤンキースのスカウトの狙うところとなり、卒業と同時に引抜かれ、そのファームチームに入れられた。好きな野球をやって身を立てることが出来ればこんな嬉しいことはなかったであろう。

しかしファームに入っただけのテスト生では自分の生活がやっとであって弟妹の面倒を見るようなことはとても出来ない。それどころか契約は一年である。来シーズンどうなるかは全く分らないのである。見込まれて入っても一年ポッキリで捨て去られるテスト生はいくらでも居る。

ニューヨークにも冬が来て街に雪が降り積った。野球ファンはストーブを囲んで来るべき春から始まるペナントリーグの噂を語り合う所謂ストーブリーグの頃であった。ゲーリッグの処へはヤンキースから何の便りもなかった。ニューヨークは寒かったけれども、フロリダその他の暖い地方にはもうスプリングキャンプを張る球団の話もチラホラ聞かれるようになった。

青年ルー・ゲーリッグは野球を辞めてしまわねばならないのかと淋しくなった。そして唯のサラリーマンになった方が自分のためでもあり一家のためでもあるのかと悩まねばならなかった。

ある日郵便箱の中にヤンキースからの手紙を見つけたルーは飛び上らんばかりに喜んだ。そして契約の内容もロクに読まずにサインして自分で歩いてヤンキースの事務所へ届けに行った。郵便が遅れて担当者に気を変えられるのが怖かったからである。

明日はキャンプへ出発するという日が来た。旅費と宿泊費は送って来て呉れたが、当然要る小遣等はこういうテスト生には前渡しては呉れなかったのである。ゲーリッグは浮かぬ顔で台所へ入った。長男の晴れの門出を祝福するための晩餐の用意に母親は忙しそうに

動いていた。ルーの姿を見ると母親は黙ってエプロンのポケットから紙包みを出して黙って置いた。その中には紙幣や銀貨銅貨を取混ぜて十ドルの金が入っていた。青年ルーは母親の有難さにポロポロ涙が出た。母親は玉葱が目に滲みるといって顔をそむけた。

野球の歴史の中で嘗てなかったであろう最強のチーム、ニューヨーク・ヤンキースの不動の四番打者になってもルー・ゲーリッグはその時のことを忘れなかった。年老いた母親には至れり尽せりの孝行息子であり、美しい妻を心から愛する夫であった。

ルー・ゲーリッグはあらゆる点でアメリカ青年の好模範であるといわれた。野球の名選手であると共に、人間としても立派であることがますます彼の名声を高からしめた。

確実を誇ったルー・ゲーリッグのプレーにも暗い影のさす時が来た。本人も気がつかなかった。中堅に快打を飛ばし一塁に走る時に別に躓いたわけでもないのに脚がもつれて倒れてしまった。その後もよくこんなことが起るので病院へ行って診て貰った。それは背髄前角尖ポリオにおかされていて、運動麻痺は徐々ではあるが進行しつつあったのであった。治す方法も全くなかった。公式試合連続無休出場の記録はこうして途絶えてしまった。

ファンはまだ知らなかった。一時のスランプであると思っていた。ゲーリッグは自分の記録更新のためだけにライン・アップに名を連ねることは心苦しいと申し出たのであった。

試合には出られなかったが、ヤンキースはゲーリッグを棄てなかった。何時の試合にもベンチに置いてキャプテンとして打順を審判に告げる役を当がわれた。これは極めて稀有なことである。プロ野球は企業である。商売である。働けない選手を飼っておくようなことはしない。あれだけ人気を博したベーブ・ルースさえもまだ働けるのに突然解顧された。多くのファンに大きな衝撃を与えた。そして最後の一シーズンはボストン・ブレーブスに移らねばならなかった。

ゲーリッグにとってはこれは却って気持が許さなかった。自分から強く申し出てヤンキースのベンチを去った。大観衆の拍手と歓声を背にしてゲーリッグは淋しくヤンキース・スタディアムを去って行った。この場面は「打撃王」（原名プライド　オブ　ヤンキース　ヤンキースの誇）の題でゲーリー・クーパーが主演する映画に極めてよく出ている。クーパーはゲーリッグに代って好演技を見せているそうであった。

ヤンキースを去っても、ニューヨーク市がゲーリックを棄てなかった。ニューヨーク市長がゲーリッグを少年感化院の院長に任命したのである。野球のようなスポーツで鍛えた肉体と精神で不良少年を善導してほしいというのである。ユニホームを背広に着換えたゲーリッグの姿はよく市民の好感を以て迎えられた。

けれども病勢は悪化するばかりで、これも辞さなければならなくなった。運動麻痺は漸次進んで呼吸に必要な肋間筋にまで及んで来た。そして美しい愛妻と数人の親友に看取られて病院のベットの上

で死んで行った。まだ四十才に充たなかった。

彼の訃報が伝えられた時ヤンキース・チームはデトロイトに遠征中でタイガースと対戦中であった。球審は直ちに試合の停止を命じ、両軍選手は各々ダッグアウトの前に一列に整列し、観衆も総起立して、ヤンキース球団旗を降ろして半旗となし、静かに黙祷して前キャプテンの冥福を祈ったということである。そして彼のユニホームの背番号4は永久欠番として彼を称えるよすがとしたのであった。

先年プロ野球リーグ結成百年を記念する行事がその発祥の地クーパースタウンであったそうだが、東京大学の前監督の堀井という人が日本の学生野球の代表者に選ばれて出席したとのことである。同氏の雑誌に書いたものによると、同時に野球を今日にあらしめた何人かの功労者の表彰が行われた。多くは故人になっているので、その殆んどは遺族が代って表彰を受けたというが、若い頃の美貌の名残を漂わすものはあっても既に全くの白髪になったゲーリッグ夫人が楚々とした態度で表彰台上に登った時には期せずして誰にもまさる万雷の拍手が湧き、暫らく鳴り止まなかったということである。

湿疹

ＡＢＣ生

前回でバーやキャバレーは、オジステ山の救済施設であるということについて書いた。

飲んべえの先生方から何か反響があるだろうと期待していたら、驚いたことに飲めない先生から質問があった。曰く、飲める人にはそういう救済施設があってうらやましいが、我々飲めない人間には他にどういう施設があるかというのである。それには流石の私も返答に窮してしまった。而も御本人は極めて真面目なのである。何か胸にぐっとくる所があった。読者諸兄の中でよい所があったら是非教えていただきたい。

オジステ山といえば、先週、福生のあるバーのママから電話があった。

「先生がびっくりするような人が、今いらっしてんのよ。え、名前？　それは来てからのお楽しみよ。いらっしゃるんでしょ。ぢゃ、お待ちしています」

こういう電話があると、誰が来てるんだろうと途中憶測して、ああの先生かなと、考えながら行くのも楽しみなものである。然しえてしてこの種の電話は、行ってみるとバーの一種の戦術であって、びっくりする人というのは、他のバーから移ってきた知り合いのホステスだったりする。

この時の呼出しは、もう十数年も会っていない同級生のＴからであった。

「驚いたろう。俺がこんな福生あたりに来ているとは、夢にも思わなかったろう。まあ、そんな妙な顔をしてないで、一杯飲め」

一寸こゝで読者に御紹介しておくが、この男に未だに独身の外科医で、沖縄を振り出しに、各地の医療機関を転々として、デイスカバージャパンとしゃれ込み、観光を兼ね乍ら北上しつつあって、風のたよりでは神戸あたりに居るということになっていた。それがいきなり福生にあらわれたのだから、驚いたのは無理もなかった。

それまでのイキサツは長くなるので省略するとして、だんだん酔が廻ってくるにつれて、当然女の話になっていった。

「俺は、生れて初めて女に捨てられたよ。それも百人に一人、いや、千人に一人いるかいないかという絶品の女なんだ。ショックだったね。俺みたいな楽天的なボヘミアンが、フーと死のうと思った位だから想像がつくだろう」

彼は長身で色白の、貴公子然としたガッチリした体格だが、掛けた眼鏡の奥で涙がキラリと光ったように思った。

「だいたい俺は、君も知っての通り独身主義で、いたる所でいろんな女と同棲して来たが、別れ際は自分で言うのも変だが、双方未練がなく全く見事なもんだったよ。それが今度は大失敗だ」

「猿も木から落ちる。弘法も筆の誤りか」

「うん、全くだ。どんないゝ女だったか聞きたいだろう」

そう言うと彼はやや勿体振って、ビールを一息に飲み干すと、あたりを見廻した。三人いたホステスも思わず身を乗り出したようであった。

「アノ時が実に凄いんだ。濡れるなんて単純なもんぢゃないんだ。そしてその声たるや……」と絶句したと思ったら眼をつぶって思い出す様に、その声というのを大声で張り上げたのには驚いたが、ホステス諸嬢はゲラゲラと笑いころげた。

「こんなのに驚いちゃいけない。クライマックスになると遂に失神してしまうんだ」

「へえー、そいつはすごい」

「あたし、失神したことなんかないわ。本当に失神することなんてあるの？」

「実は俺もそんなに経験はないんだが、失神したあとのせりふがいいんだ。気がついて目をあけると〝あゝ、ここどこなの？〟って言うんだ」

「本当かい？」

「嘘は言わん。ちょっとそんな女はいないよ。それだけに逃げられた俺のショックも分ろうというもんだ」

「うん、分る、分る。然し、その女も満足していただろうに何で逃げたんだ」

「お定まりの、若い男を作ったのさ。今頃はどこかで失神しているだろうよ。ここはどこなの？って。蓄生め」

私には彼の口惜しさがだんだんと身にしみて分ってくるように思えた。女共は何故か黙って、それぞれ別のことを考えているようであった。

そして彼の話を聞いているうちに、西多摩医師会報第十号の「思

い出される人」を思い出していた。あの長又強太郎氏にどことなく一寸似たような話であったからである。

それから彼と二、三軒バーをはしごして、私もいつの間にか、かけがえのない女を失ったような錯覚に陥って、ブツブツ世をのろいつつ帰宅したように思う。

最も熱烈な恋愛は最も冷たい結末を持つ　（ソクラテス）

『ひと口咄』

「わたしが亭主は、見掛と違ふて、弱い生れつきで月に一ツか二ツ、それも明る日は頭痛がして、さりとは楽しみもござんせぬ」「それには能い薬がある。牛房、薯、卵を毎日進ぜなされ」「是はよい事を承りました」と女房が手料理、貝焼に卵、牛房、薯を入れ、蒲焼なども取揃えて待ければ、亭主夜に入り帰り夜食に是を食ひける。余りの旨さに少しも残さず、飯も常より大喰して寝たり。夜中に女房をゆすり起す。女房兼て期したる事、くるりとむきければ「これこれ行燈とぼしてくれい」「ばからしい暗うがようござる」といふ「そこに紙が有るか」「紙はあとで探しても済む」亭主「そんな機嫌ではない、急に雪隠へ行たい」

（創業60周年）

医薬品・化学薬品・工業薬品・卸

本郷薬品株式会社

多摩営業所　東京都日野市上田　424－3
〒　191　電話0425(83)6331（代表）
本　　社　東京都文京区本郷5丁目24番7号
〒　113　電話（815）2511番（大代表）

趣味

西多摩歌壇

中秋三題（四十八年十月十四日）『小堂』

中秋の野道に出でてそぞろえば
名もなき花の咲きみだれけり

秋の空蜻蛉の影の二つ三つ
多摩の自然もなほのこりあり

栗拾う児等の喜び一入に
野菊もふみてまろびてやあり

紀行

「家族、従業員旅行始末記」

川崎

西多摩医師会恒例の家族、従業員旅行は、好天気に恵まれた九月九日、昨年に引き続き今年も都内観光を行なった。この行事は、福祉部の理事がお世話をすることになっているので、本来ならば、わたくしを含めて四人が同行すべきなのでしょうが、今回は折悪しく三人の先生方が、それぞれヨンドコロナイ事情で不参加となり、結局わたくしが、ひとりでお世話をしなければならない立場に立たされ、こういう事には不馴れで、しかも生来「気の弱い」わたくしは、ところ、杉本先生が急遽応援参加をして下さることになり、ホット胸を撫でおろしたことでした。（友達というものは有難いものです）その上、ドライブ会でいつも一緒の高木先生が参加されておられたので、一層心強く思い、どうにか務めを果たすことができた次第です。

前置きが長くなりましたが、最初の目的地は渋谷のＮＨＫ放送センターです。科学技術の粋を集めた放送センターを見学できたことは、大変有意義でした。

次は、中華料理の殿堂「留園」の本店でのバイキング方式による昼食で、一～二日は食べずに過せる位食べて欲しいとお願いしたのですが、結局は、皆さん余り沢山食べられなかったようでした。（日本人の胃袋は本当に小さいですね）そして最後は東宝演芸場で大いに笑って解散となったわけですが、今回は車中で、自己紹介を兼ねて次回からの目的地等についてのアンケートをとりました。その結果は「引き続き都内[illegible]」という声とにハッキリと分れましたが、声の強さからいうと、一泊旅行を望む声が圧倒的

に強かったことを報告してこの始末記をおわります。

慰安旅行について

阿伎留病院
総婦長　河瀬　ゆき

九月九日催されました家族従業員のハトバス都内見物に参加させて頂きまして有難うございました。

先生方には日夜御多忙の中を私共の為にお暇をさき何かと細かな御配慮下され見て楽しみ食べて楽しみ日曜日を一日充分に満喫させて頂きまして本当に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

日常医療に関係する仕事の誇りを改めて感じさせられました。

どうか此の催しを予算関係の許す限り燈台下くらしの私達に場所を換え負担も多少増して頂いて休日の一日を楽しませて頂きますよう今後共宜敷くお願い申し上げます。

車中希望意見の中で土曜日の午後よりの一泊希望も多くございましたように相当する負担に依り時には計画に入れて頂きますようにお願い申し上げます。

阿伎留病院　天野　康子

私は昨年と今年の二回旅行に参加させていただきました。そして心から感謝して居ります。永い間東京に住んでいましても、中々一流の所で味覚を楽しむということは思うにまかせません。又歴史や文字で有名な所を観賞したり日毎に進みゆく首都東京の有様など目のあたりにみせていたゞくことは最高のレクリェーションでございます。

ほんとうに有りがとうございました。

お世話していたゞく先生方の御苦労に厚く御礼申し上げると共に、今後はできるだけ先生方に御迷惑をかけないような方式で毎年お願いしたいと思って居ります。

ほんとうに有りがとうございました。

談話室

「青梅市休日診療所問題に就いて」

十月十六日夜公聴会雑感

F生

私は、政治には余り関心がない。政治家、殊に、現在に於ける日本の政治家等には一向に興味もないし、嫌いである。第二次大戦で、学生時代、大切な多くの友人を亡くした。其の忿怒と、騙されたと云う痼とが、今になっても消え去らない。過日も、態々出向く必要もないのに莫大な国費を費して石油を貰いに出掛けて行き、揚句の果は、上手く去なされて、フランスの看板娘を借りて来た等は、将に噴飯もので、思い上りも甚だしいと思われる。寧ろ、生きたフランス美人でも抱えて帰って来る位なら、まだまだ何らかのニュアンスも感じられよう。一国の大臣が其の位だから、東京の片田舎の政治家諸侯等は、今回の事位いはやりかねないと思われる。

どうも、よく聞いて見る所に依ると、事の起りは、青梅のさる、古い大きな旅館だか、料亭だかの娘婿に市費を投じて休日診療所を開設させると云う事にあったらしい。市長始め市当局は、市民のため、市民のためと呼び乍ら、其所に私利私慾が絡んで居るために市医師会からも反対され、野党議員からもつゝかれて大部困却の様子である。市立総合病院の医師、看護婦対策に業を煮やした市長は、或る特定の青年医師等（其の名を武尊会と云うらしい）に数千万円の市費を以て餌となし、表て向き、市民には、市が休日診療所を経営して居る様に見せかけ、其の実、医療行為は民間委託と云う甚だ巧妙に見えて却って危険を孕んだ態度をとって居るらしい。例えば、たまたま急病人が発生して、其の家族又は救急車が其の休日診療所に運び込んだとしよう。其の時、若し医師が何等かの都合で不在で適当な処置がなされなかった場合、其の責任から市は逃れられると云う構想である。即ち、実を捨てて名を取る、と云ったことらしい。将に、現在の日本を象徴して居る様であり、何とも云えぬ淋しさと、虚しさとを感じさせるものである。唯々、其所には、お互の信頼感は勿論、意志の疎通すらなく、総べて自己の利益にのみ繋がって居る様に思われる。又、武尊会なる医師団体も甚だ不明瞭なものらしく、其の首領が、当の娘婿かも知れない。何れにせよ、例え、かの日本武尊であったにせよ、昼夜兼行、寝もやらず診療することも出来まいし、又、天照大神に使者を走らせ、八百万神にお願いして見た所で、誰が、彼のために働いて呉れるであろうか、又、そんな保証が何処にあるのであろうか。思い上がりも甚だしいと考えられる。凡を、人が他人を自分の思う様に働かす事は、如何に困難であるか

を考えねばなるまい。小生の如きは、他人どころか、女房、子供さえ、いや既に自分自身の一部であるオチンコさえ自分の思う様にはならない。医者は、営利事業ではあり得ないし、営利事業たり得ない。唯、周囲の人々とのコミュニケーションのみが、我々に独善的な、さゝやかな喜びを与えて呉れるに過ぎない。若し、営利のみを目的として病医院を経営しようとする人が居たとすれば、それは、余程の馬鹿者である。若し、それ程の経営能力があるとすれば、キャバレーでも経営した方が、づっと効果的ではないであろうか。尤も、此の度の件で、日本武尊は、案外頭の良いチャッカリ屋で、市長のぶらさげた餌をすっかり頂戴した上で、一、二ケ月後、休日診療はヤーメタ、普通の診療所にするョと宣言して、知らん顔をする心算かも知れない。

長寿入門 (2)

ソ連の百六十八才の長生き男は、酒もたばこもたしなまなかったというが、私のような酒好きは長生き出来ないだろうか。

その点について住友生命が、嬉しい結果を出してくれた。百才以上の男女七十八人について調査したところ、先づ地域別分布は農村の六五%がトップ。次いで住宅地帯が二七%、それにひきかえ工業地帯はゼロで、若い労働力が集りやすいという事情があるにしても「公害が長寿を妨害しているのでは……」という注釈がついている。

このことは長寿の秘決をたずねたアンケート結果でも裏付けされており、「よい水、よい空気に恵まれていること」「よい自然環境のもとで暮すこと」という答が六件あった。どうしたら長生きできるかという質問には「からだを動かしよく働くこと」「くよくよしない」「規律正しい生活」という答が圧倒的に多く、今でも六〇%が家事を手伝ったり、草むしり、マキ割りなどをして身体を動かしている。また半数の人が酒を愛飲しており、なかには「晩酌を欠かさない」など長寿者は総じて酒好きという結果が出た。これに対してタバコの方は、九〇%近くが「全然すわない」と対照的な答を出していた。

（ひ じ り）

ニュース

地区医師会長協議会報告

四八、九、十四
高水会長

一、休日診療について

七月一日より都全域に亘って休日診療を開始したが、一応態勢は整ったので、七月及八月分の診療助成金の交付が契約医師会に支払われる予定であるが、本会計は特別会計払いにすること。

現在都医師会と休祭日診療契約をせぬ地区医師会は、墨田、向島、本所、深川、杉並、練馬、多摩調布、北多摩、西多摩である。

二、労働安全衛生法に伴う産業医のあり方について

新に産業医制度が制定され、工場労働者の衛生管理が重要視され今迄の様な単に名前のみの産業医でなく、産業医としての責任が追求されるので、契約書に基いたきちんとした産業医のあり方について医師会の指導が必要である。

三、夜間診療需要実態調査について

無作為的に抽出した救急病院、一般病院、一般診療所に対して、九月三十日及十月一日の夜間診療実態の調査があり、来年度休祭日夜間診療の予算対策資金獲得の政治的ふくみのあるものである。

四、医療保障基金法案並びに医療の一部改正について

社会党、公明党、民社党の三党が提出した医療国営につながる法案で、地域基幹病院（公共医療機関）を設置し、漸次私的医療機関の消滅をはかろうとする法案である。

（本件に関しては丸茂参議員の解説パンフレット参照のこと）

五、昭和四八年度老人福祉法による老人健康診査事業の実施について

六、付添看護承認要件の緩和等について

七、生活保護法による医療扶助の実施上の疑義について

八、学術講演会の開催について

（五より八項迄は資料印刷配布済につき参照されたし）

九、第九回医療経済実態調査について

日本医師会が隔年に実施しておる調査で、十九床以下の個人立診療所から有床二九一施設、無床五八二を無作為的に抽出した。

当医師会では野村有信、栗原正吾、安藤義夫、石川孝明、高水武夫、大嶽原二、内田万次、大原芳雄の各会員が調査の対称となった。

十、第三一回診療所調査について

日本医師会が毎年実施する調査で、東京都は有床診療所五一一施設、無床診療所一〇一六施設が対象となり、各地区医師会の会員数に比較して無作為的に抽出して調査する。

十一、インフルエンザ予防接種の実施要綱について

予防接種が十月、十一月の二ケ月間に実施予定であるが、新ビールスのためワクチン製造が遅れ十月下旬に入手の予定である。

十二、東京都がんセンター研修事業実施について

十三、其の他

三多摩地区医師会
庶務担当理事会連絡会報告

四八、九、二一

九月二一日（金）午后八時から北多摩医師会館に於て武蔵野医師会担当の下に、定例連絡が行われた。北多摩医師会高須、三浦。府中近藤。町田小原。三鷹高山、秋元。南多摩出構、小松。西多摩山田。調布五島、宮里の各理事出席し、武蔵野医師会山崎理事の司会により約二時間半に亘り左記事項に関して論議された。

一、三鷹市の休日診療について　三鷹医師会

小児科、内科を主とし午前九時三〇分より午后五時三〇分まで、休日一日につき最低一医療単位（医師一名、看護婦一名、事務員一名）が出務し、市より一日につき三七〇〇〇円を助成金として交付する。ただし年末年始（十二月二九日より一月三日まで）は五〇％増しとし、福祉会館内に固定式方法で十月中旬より診療を開始する。

二、三鷹市防災訓練について　三鷹医師会

三、市長、議長との懇談会について　北多摩医師会

四、多摩医学会について　北多摩医師会

多摩医学会幹事会が八月十八日開催され本年医学会を来る十一月十七日午后二時より富士銀行立川支店四階講堂で開催と決定し、講師も決定したと報告があった。当日西多摩医師会六十周年記念式典日で事務当局に申し入れてあったが、考慮されたき旨申し入れた。

（後記、九月二十九日三多摩医師会懇親会の席上当医師会よりの申し入れに対し種々幹事諸先生の絶大なる御尽力により延期され十二月上旬開催となる。こゝに当医師会としては深甚なる感謝の意を各幹事諸先生方に捧げる次第である）

五、学校医手当について

当医師会が東京都各医師会にさきがけて内科管理職手当を獲得した点を報告し、各地区医師会に於ても獲得される様希望を述べた。調布医師会より内科医と眼科医、耳鼻科医との手当に差違がある点を各医師会でどのように処理してるかと議題提出があり各地区の事情の説明があり今後の問題点であることに意見が一致した。

六、其の他

次回は多摩調布医師会が幹事として開催と決定す。

定例理事会

四八、九、二六

出席者、高水、栗原、後藤正副会長。山田、福島、箱崎、江本、川崎、高木、内山、森、蓮沼、大橋、大河原、藤野、近藤、瀬戸岡各理事。香西、坂本、菱山監事。

一、地区医師会協議会報告　　高水会長

二、東京医師政治連盟会議報告　　高水会長

丸茂参議院員が来年度は全国区から立候補するため各地区医師会に於ては後援会を結成して当選を期することとする。

三、青梅市無休診療所について　　高木会長

大門地区に夜間の無休救急診療所を開設する予定であったが、終日無休診療所の形態と変り、市が七千万円を投資して特定個人に委託経営をさせることに青梅医会が反対してる点を説明す。各理事より種々質問がなされたるも青梅医会で意志を統一してこの問題に対処する様要望す。

四、健康保険法改正について　　瀬戸岡、箱崎理事

健康保険法改正が議会を通過し十月一日より社会保険家族の給付が七割となるが、これに関する政令、省令が未決定なため、鉄道家族の老人医療との関係、日雇健康保険との関係等不明な点があるが会員全員に窓口徴収を徹底させる様通達することに決定す。

（資料配布済み）

五、創立六十周年記念特別会費について　　山田、江本理事

総会にて承認された本件に関して特別会費について説明したの如く全員一致を以て可決承認される。

一般診療所　一〇〇〇〇円

公立病院（青梅、福生、阿伎留）五〇〇〇〇円

一般病院　三〇〇〇〇円

六、六十周年記念役割について　　山田理事

来る十一月十七日開催の創立六十周年式典の職務分担に関して説明を行い、各地区医会より各五名宛五名を尚、推薦されたき旨要請し万場一致で可決承認される。

○本部　山田総務部長、菱山監事。

○総司会　瀬戸岡保険部長、箱崎広報部長。

○受付会場　高木公衆衛生部長、大河原学術部長。蓮沼、大橋、森各理事。香西、坂本各監事。原田事務長。井上（富）、堀内、植田、三枝、三井各準備委員。

○会計及記念品　江本経理部長。矢ケ崎、速水各理事。青木事務員、木野村、東、鈴木修、菱山各準備委員。

○記録、写真　藤野、内山、川崎、近藤各理事。杉本副議長。

○宴会　福島福祉部長、川崎、矢ケ崎各理事。今川、栗原（三）、進藤各準備委員。

七、新入会員承認の件

目白第二病院	福原　清（日本医大）	内科
東青梅病院	今井　真（日本大学医学部）	精神科、内科
青梅総合病院	方　嘉宏（東京大学医学部）	外科
	小原　恵（東京大学医学部）	外科
青梅総合病院	井上　毅（日本医大）	産婦人科
	相川　隆司（東北大学医学部）	内科
福生病院	今村　巍（慶応大学医学部）	内科

各部だより

秋季麻雀大会だより

当医師会館座敷に於て、去る十月十三日（土）第三回麻雀大会が開かれ、負けぬ気だけは人後におちない天狗どもによって和気あいあいのうちにも真剣に覇が競われましたが、結果は左記の通りでした。今回は都合悪く福生病院の猛者連の参加がなかったのが残念ですが、次回の新春大会（一月二十六日）には大いに期待しています。一たび卓を囲めば忽ち十年の知己の如くなり所謂「〇友（ポンユー）」になるのが麻雀の世界、千万の言葉は要りません。次回はもっと多くの同好の志の参加を乞うや切であります。

杉本記

優勝　中村（熊川）
2位　桂木（戸倉直診）
3位　富永（青梅病院　産婦人科）
4位　足立（青梅病院　泌尿器科）
5位　百瀬（青梅）
6位　今川（五日市）
7位　杉本（五日市）
8位　川崎（日の出）
9位　速水（青梅）
10位　相川（青梅病院）
11位　甲斐原（青梅病院　放射線科）
12位　矢ケ崎（瑞穂）
〃　清水（酒井薬品）

アンケート

① 家族構成　② 趣味（所属団体名も）　③ 生活信条又は健康法　④ コレクション　⑤ 会報に対する御意見、御批判

坂本保

① 妻、長男（東京医科歯科大、第一内科）、長男の妻、孫二人。

② 現在特になし。碁、将棋、マージャン、写真、スキー、謡曲etcすべて入門だけ。

③ 一、他人に迷惑と思われる事をしない。二、過去にこだわらぬこと。三、病気したら充分ねること。

④ 何もない。集めるだけのことは愚と思う。

⑤ 現在の編集方法で大体よいと思う。尚慾を言うなれば、全会員に満足してもらうため、論文、散文とも同じような内容のものは出来れば二、三カ月で終了するように望む。

松田三樹雄

① 妻、長男（中学一年）、次男（小学四年）の四人家族です。

② 道楽程度のものは幾つかありますが、趣味の領域までには達しておりません。

③ 特にこういうものを持ちませんし、又もつ気もありません。しいていえば〝なるようになれ〟です。

④ 金のかかるものは手に届かないし、金のかからぬものは時間がかかるので諦めております。

⑤ 編集に携る先生方のひとかたならぬ御苦労の程お察し致します。第十一号「医師会昔話」好企画にて、楽しく読ませていたゞきました。

高水武夫

① 高水武夫、直子、芳夫、松夫、文夫。

② ゴルフ、ボウリング、囲碁。

③ 特別なきも一週一回ゴルフ一ラウンドまわることにしておる（務めて）。

④ 刀剣。

⑤ 西多摩医師会一家と考えれば、西多摩医師会員相互の友好ばかりでなく、家族ぐるみの親睦友好を更に深めることが必要と思われる。

清水章三郎

① 妻、子供五人。

② 登山。

③ 良く遊び良くたべる。

④ なし。

⑤ いつもとても面白く読ませて頂いています。

星野稔

① 政江（妻）昭和六・一・二二生れ 受付家事、久美子（長女）昭和二七・二二生れ受付手伝い、誠（長男）昭和二九・一・八生れ浪人二年目。

② 釣、囲碁、マージャン、ボウリング。

丸茂三千穂

① 家内、息子（中三）、娘（小六）計四名。

② 推理小説、囲碁、ゴルフ、ボウリング。

③ 他人に思いやりを！

④ 推理小説。

⑤ 半紙判、八頁位で毎月発行。執行部会員、会員執行部の情報交換。親睦が主眼となる様にすること。

編集後記

本号には、正に読書の秋にふさわしい好読物が一杯です。連載実に13回を数える小泉先生の「時論」もさることながら、岸田先生の「鉄人」ＡＢＣ生の「湿疹」と随筆・文芸欄は花盛りの感があります。一方また、談話室欄におけるＦ生の「ズバリ発言」も大変興味深く読ませて戴きました。「クサイ物にはフタ」式の逃げた態度では、進歩も向上も望めないでしょう。正々堂々と問題と取り組む態度を、みんなが持つようになることを希望します。

（川　崎）

青梅医師会と市役所の二十四時間診療実施の診療所を開設する問題について、医師会報でも既に記述されているが、今月号は、これについて篠野先生が非常にむづかしい問題をユーモラスにとらえている。……と私は感じたが……。　兎角明日は我街にも起り得る問題なので、青梅医師会員のみならず一般会員からの御意見と御投稿をお願い致します。

（矢ケ崎）

秋も愈々深まり、そろそろ炬燵が欲しい季節になりました。今年は、雨の日が多く、すがすがしい秋晴れの日が少なく、草叢にすだく虫の音も、心なしか少ない様です。第十七号を編集するに当って岸田先生の鉄人、ＡＢＣ生の湿疹と其の多彩さを増して参りました。表紙及びカットは羽村の松原先生の筆になるもので、厚く厚く御礼を申し上げますと共に引き続き御投稿下される様お願い申し上げます。又小生の思い違いから、前号にて、小泉先生の時論「先進諸国の医療形態を探る」の完結を申し述べましたが、誤りで御座居ました。お詫び申し上げます。久し振りに、川崎先生の御発案に依る、「談話室」を、青梅市休日診療所の件に就いて、取り上げて見ました。大方諸賢の御批判、御意見を御願い申し上げます。

（篠　野）